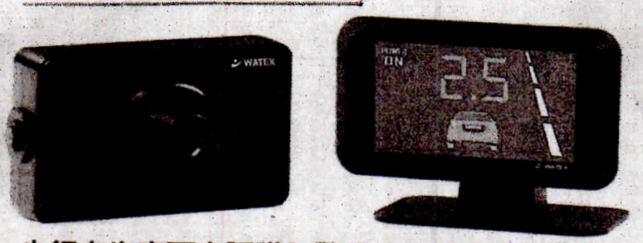
2016年4月20日　上毛新聞社に衝突警報装置 XLAS-303 が掲載されました。

太田のワーテックス

歩行者、標識 カメラで認識

衝突警報装置に新機能

自動車関連機器製造のワーテックス（太田市強戸町、安俊典社長）は、歩行者や道路標識を認識し警告音を発する自動車用の衝突警報装置を開発した。事故を未然に防げるとして、トラックメーカーや自動車販売会社に売り込み、初年度は１万台の販売を目指す。



歩行者や車両を認識し警告する衝突警報装置

装置はカメラとモニターがセットの「XLAS-303」で、2014年発売の従来製品の後継機となる。フロントガラスに取り付けたカメラの映像から前方の歩行者や車両、車線、標識を認識し、衝突などの危険を捉えると音声とモニター表示で警告する。

従来製品は、ウインカーを出さずに車線を越えた時や前方の車両との距離が迫った時に警告音を発していた。新製品はこれらの機能に加え、歩行者に衝突する数秒前や、渋滞など低速走行中に前方の車両に1～2㍍まで近づいた時、速度違反や進入禁止違反をした時に警告する機能を搭載した。

モニターには、走行速度から計算した衝突するまでの時間や標識が表示される。同社製のデジタルタコグラフと連動させると、どの場所で何回警告があったかなどをソフトウエアで確認できる。

同社は「危険運転を警告することで、運転技術や燃費の向上にも役立つ」としている。

価格は9万8千円（税別、取り付け工賃別）。